

耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、こんにちは。早いものでもう四月。旧暦で行っている知立の今月の縁日は九日、新暦の覚王山は毎月恒例の二十一日。いよいよ春本番です。

般若心経の意味を学ぶ今年のかかわら版。生き方や社会のあり方を考える際の道標(みちしるべ)です。

今月は「照見五蘊皆空(しょうけんごうんかいくう)度一切苦厄(どいつさいくやく)の十一文字。

生き物は全て物と心で成り立っています。仏教では、かたちある物のことを「色」と言います。

一方、心は「受(感じる)」「想(考える)」「行(心がある方向に向く)」「識(自らを知る)」の四つから成るそうです。

「色」「受」「想」「行」「識」人間は物と心、つまり

の五つから構成され、この五つが「五蘊」です。「蘊」という字は何かが集まっている状態を表します。

人間が逝けば、物も心もなくなりません。だから「皆空」。「照見」は見極めるといいう意味。

つまり、「照見五蘊皆空」は「かたちあるものはやがてなくなることを知る」ということを教えています。

「度一切苦厄」の「度」は「渡す」。どこからどこへと言えば、現世の「此岸」から覚りの「彼岸」に

「此岸」から「彼岸」に渡り、「一切」の「苦」と「厄(災い)」から解放され、心安らかな境地になる。それが「度一切苦厄」です。かたちあるものはやがてなくなる。そのことを理解できれば、苦しみに安らかな気持ちになれる。

「照見五蘊皆空度一切苦厄」の意味が何となくわかるような気がします。

「苦」は「欲」から生まれます。何かに執着すれば、それを得られなければ苦しくなります。しかし、何もかも、かたちあるものはやがてなくなりま。そのことを理解できれば、「欲」もなくなります。

多くの人に親しまれるご心経。わずか三百文字弱の短いお経の中に、お釈迦様の教え、人間関係や社会の問題を和らげる心のあり方、生き方についての教えがたくさん詰まっています。

みんなが「照見五蘊皆空」であれば、「欲」からも解放され、国同士、人同士の争いや問題も少なくなるでしょうね。それでは、また来月。ごきげんよう。合掌。

※



かわら版執筆者 大塚耕平

日泰寺の地元、田代小学校、城山中学校を卒業。旭丘高校、早稲田大学をへて、日本銀行に18年間勤務。

2001年から参議院議員。元内閣府副大臣・厚生労働副大臣。地元の歴史・文化遺産の継承と振興のために「弘法さんかわら版」を執筆しています。今年で、足かけ14年目。

日銀時代に母校の大学院博士課程を修了(学術博士)。現在は、早稲田大学と中央大学大学院の客員教授も務めています。

弘法さんかわら版

弘法大師の生涯と覚王山

第1号から第78号は、2008年に大法輪閣から本になって出版されました。

好評発売中

大法輪閣

(仏教書の老舗出版社)

営業部：電話 03-5466-1401

